

第5回 奥州市地域医療検討会議 会議録

(令和8年9月25日作成)

日 時 令和8年8月24日(月) 午後6時30分開会 午後7時40分閉会

場 所 奥州市役所 7階 委員会室

出席者 奥州市長、医療関係者7名、オブザーバー(県関係者)3名、随行者3名、
傍聴者1名、関係部局3名、事務局4名

<次第>

- 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 意見交換
【テーマ】中間とりまとめ等について
 - 4 その他
 - 5 閉会
-

1 市長発言要旨

- これまで奥州市に必要な医療や将来的な見通しなどについて様々な意見をいただいた。今日はそれを中間とりまとめとしてまとめていきたい。

2 意見交換(会議非公開)

冒頭に、市医療局から令和7年度病院事業の決算状況が報告された後、事務局から中間とりまとめ案について資料配布と説明を行い、ご意見等を伺った。

また、次回会議に向けた内部検討に相応の時間を要することから、9月に予定していた会議の延期や後半のスケジュール変更を申し出た。

【説明の要旨】

人口推計と医療需要の変化等、現状と将来見通し、中間時点のまとめなどの構成で、これまでの意見交換や資料等に基づき整理した。中間時点のまとめには、①地域全体で県立胆沢病院の体制を維持することが最重要課題であること、②将来的に現行の医療提供体制を維持することは極めて困難であること、③今後は「持続可能な医療提供体制」を構築することが重要になると見込まれており、役割分担や連携に加え、病床数の適正化や医療機能の集約化等を図っていく必要があること、以上の3点を掲げた。

また、おわりに、国が新たな地域医療構想を都道府県ごとに策定する方針を定め、岩手県では2028年度末の策定に向け調査検討を進めていること、当市における地域医療のあり方についても本構想との整合性に留意しながら今後の検討を進めていくことについて記載した。

【主な意見等】

＜中間とりまとめ案について＞

- 救急医療に関し、将来的には県立胆沢病院が全て受け入れることが可能ではないかというように表記になっている。現在、7割が県立胆沢病院、2割が総合水沢病院、その他1割となっている中、そのようなことは本当に大丈夫なのか心配だ。

⇒ 日中は県立胆沢病院以外でも受け入れていただいて、休日夜間に限ってであればできないことはないのではないか。その方が、市民にとっても望ましいことではないか。

⇒ 表記を「休日夜間の“入院を必要とする”救急」に改めたい。

- 新たな地域医療構想について、国のスケジュールでは2028年度末の策定としているが、岩手県では「遅くとも2028年度末まで」の策定を予定しているので、そのように表記を修正いただきたい。

⇒ 表記をそのように改めたい。

＜病院事業決算状況等について＞

- 医療収益28億4千万円に対し、医業費用が45億円かかっているということは、事業が成り立たない、持続可能性がないことが明らかである。現在、市立医療施設は、高度急性期も産科も24時間救急もやっているわけではない。やっている医療の内容に比してバリュー（価値）のある赤字なのか。そこが伴わないと、これだけの赤字は許容しがたい。病院をやめろと言っているわけではないが、データを見れば極めて厳しい。ビジネスモデルが成り立っていないと思う。

- 収支のアンバランスから、経営改善ではなく構造を見直す必要があると考える。医療現場では皆さん毎日一生懸命取り組んでおられることは間違いないと思うが、現場努力だけでは絶対に改善しない構造になっているというところを理解すべきと考える。

- 市立医療施設の経営については、まずは市の中で、数字データを元に、みんなが同じテーブルについて話しながら考えをまとめ、各方面に調整を図っていくべきではないか。

- 赤字が常態化していることについて、市は感覚が麻痺していないか。民間だったら倒産しているような状態であり、市には危機感を持って対応してほしい。

- 市立医療施設の経営について、非常に厳しい状況であること、市の中でしっかり最適構造を検討していくべきであることなど、出席者から厳しい指摘があったことや、市民や市議会等にしっかり説明して理解や共通認識を深めるよう要望があったことなどを、中間とりまとめにしっかり反映してほしい。

⇒ 中間時点のまとめとして、そのような指摘や要望があったことを表記したい。

<その他>

- 5年ほど前は、市の財政健全化の中で一般会計からの繰出金の維持が困難であることを理由に、市立医療施設の再編統合が議論されたが、地域の反対等もあり、最終的に取り下げられた。一方で、人口減少、医療人材不足が進んでいく中で数字等を見ながら冷静に考えていくと、今の状況で続けていくことはやはり難しい。医療従事者が集まった中では集約という方針になるかもしれないが、今後は市民等の理解を深めていくことが課題になってくるだろう。地域医療を取り巻く現状について、これまで市の説明が足りていないと感じる。そこを市民等にしっかりと丁寧に説明していき、議論の下地を作るべきだ。
- 市の今後の方針や取組を、市の中できちんと検討することが肝になるだろうが、次回の検討会議までに市の中で実のあるまとめり方になるために、もう少し時間があればと思う。
- 9月に予定していた会議を延期して、10月末までに開催することとするのは構わないが、市はそこまでに内部検討して、市の具体的な取組の考え方をまとめることとなる。市立医療施設の先生方やそこで働く人たちの気持ちもあまり理解されないままで突っ走っても、上手くいかないのではないかという不安があるので、留意してほしい。